

# 令和7年度 杉並区立松ノ木中学校 「教育調査」 アンケートの分析と考察

杉並区立松ノ木中学校  
学校運営協議会

## 1 アンケート調査の考察にあたって

学校運営協議会は、杉並区教育調査と学校独自調査をもとに松ノ木中学校の教育活動の傾向を明らかにし、次年度の教育課程編成及び学校運営の参考資料とされることを目指して分析と考察を行いました。

① 回答の選択肢は次のようになっています。

a：とてもそう思う      b：ややそう思う      c：どちらともいえない  
d：あまりそう思わない      e：まったく思わない      f：わからない

② 肯定率と否肯定率、中間率は次のように算出しました。

肯定率 = (「とてもそう思う」 + 「ややそう思う」) ÷ 回収数 × 100

否肯定率 = (「あまりそう思わない」 + 「まったく思わない」) ÷ 回収数 × 100

中間率 = 「どちらともいえない」 ÷ 回収数 × 100

③ 調査はフォームズを使用して行いました。

④ 教育調査アンケートの回収数と回収率（過去との比較）は次の通りです。

調査対象	在籍数	回収数	令和7年度 回収率(%)	令和6年度 回収率(%)	令和5年度 回収率(%)
生徒	251	※追加調査 151	60.2	80.3	75.0
		※独自調査 151	60.2		
保護者	251	教育調査 168	66.9	53.7	43.0
		独自調査 139	55.3	58.3	
教員	18	教育調査 18	100	77.7	93.8
	20	独自調査 20	100	100	
合計	520	教育調査 337	64.8	55.2	60.1
	522	独自調査 310	59.4	70.5	

※追加調査は、令和4年度まで実施されていた、杉並区の教育調査【生徒版】の質問を基にして、学校独自で質問を作成した【教育調査に準ずるもの】です。令和7年度から追加しています。

※独自調査は、学校運営協議会で作成した質問項目による調査です。

⑤ 考察の視点は昨年度と同様に、

70%以上の肯定率を「満足できる状況」、

50%以下の肯定率を「課題のある状況」、

※否肯定率が20%以上を「課題のある状況」としています。

※前年度の結果と比較して10%以上の変動のある項目についても考察しました。

## 2 生徒

アンケートは昨年度の回収率が 80%であったのに対し、今年度は 60%であった。次年度は回収率を上げるために工夫した取り組みを進めていただきたい。

調査結果では、追加調査 14 項目中 12 項目が 70%以上の肯定率を示している。

また、学校独自調査では 12 項目中 10 項目が 70%以上の肯定率を示している。2 つの調査結果の 70%以上を合わせた、22 項目中 90%以上が 8 項目、80%から 90%が 10 項目あり、とても良い結果を示している。

### ◇肯定率 70%以上（「満足できる状況」）の項目はつぎの通り

#### ◇追加調査

- (1) 先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。(91.4%)
- (2) 授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。(78.1%)
- (4) 授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。(71.5%)
- (5) 授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。(92.1%)
- (6) 学校の授業によって、分かることやできることが増えている。(88.7%)
- (7) 先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。(81.5%)
- (8) 先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。(96.7%)
- (9) 先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。(85.4%)
- (10) 道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。(90.1%)
- (11) 先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。(90.7%)
- (12) 学校や家などで、一か月間に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ。(74.8%)
- (14) 先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。(82.1%)

#### ◇学校独自調査

- (1) 友達や先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に相談できる大人(先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域の人など)がいる。(82.1%)
- (3) 学校では、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる。(92.7%)
- (4) 学校では、授業において図書室、理科室等の特別教室を活用している。(90.7%)
- (5) 先生は、体験的な活動や調べ学習を進んで取り組めるように教えている。(86.8%)
- (6) 先生は、学級活動や生徒会活動、学校行事に進んで取り組めるように教えている。(84.1%)
- (7) 先生は、あいさつの励行や決まりを身に付け、学校生活が向上するよう教えている。(92.1%)
- (8) 先生は、将来の進路や生き方、働くことの意味について先生や友達と相談したり、考

- えたりすることができるように教えている。 (76.2%)
- (9) 先生は、いじめや仲間はずれなどがなく、相手の立場を考え、互いに協力し合う関係が作れるよう教えている。 (86.8%)
- (10) 先生は、学校生活が充実し、楽しめるよう教えている。 (86.8%)
- (12) 先生は、食べ物（栄養）と生活との関わりについて教えている。 (81.5%)

◆肯定率が70%に満たない項目は次の通り

(中でも50%以下の「課題のある状況」は特別支援教育の項目一つのみであった)

◆追加調査

- (3) 授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。 (65.6%)
- 学校では授業内で可能な範囲で子供たちをサポートはしているものの、個別の対応は人数的に難しいといった現状もみられる。授業外の取組として学校では今年度から自主学習調整期間を設定している。教員側の対応を含め、否肯定率が32%いることも配慮し、個別最適化に向けて引き続き環境を整えていくようお願いしたい。
- (13) 地域の行事に参加している。 (59.6%)
- 部活動や特定な習い事に参加している生徒は現状とても多い。そのような生徒たちにとって地域行事に参加することは難しい。そのようなことから、6割近くの生徒が地域行事に参加している状況は決して低い数字ではないと考える。

◆学校独自調査

- (2) 特別支援学級や自校外の障がいのある同い年くらいの子ともと交流する機会がある。 (35.8%)
- 「特別支援教育(2)」の項目で評価結果が低くなっているが前年度より上がっている。子供たちが特別支援学校や特別支援学級と交流を行う機会を設けるなど、連携していく体制作りを引き続き進めていただきたい。(後述参照)
- (11) 先生は、地域でのボランティア活動の大切さを話したり、すすめたりしている。 (69.5%)
- この調査項目では、学年間で差が大きい結果が出ているが肯定率は平均して上がっている(1年68.4%、2年58.5%、3年85.4%)。現3年生も昨年度は46.2%と決して高い数値ではなかった。肯定率は3年生で上昇している。その要因として、進路学習の中で高等学校においてボランティアが必修となっていることに触れたり、道徳の授業を積み上げたりする中で子供たちに意識の変化が生じた可能性が考えられる。また、社会科の公民では身近な社会生活の仕組みについても触れていることも、受け入れる側の意識として高まったと考える。

◆前年度の結果と比較して10%以上の変動のあった項目(数字は前年度からの変化)

◇学校独自調査

- (1) 友達や先生、家族のことなどで悩んだとき、学校に相談できる大人(先生、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域の人など)がいる。 (+14.3%)

→次年度は引き続き教育相談活動の充実を進めてほしい。生徒が悩んだ時安心して相談できたり支援できたりする環境を、学校と家庭、地域で連携して構築できるよう進めていただきたい。

- (2) 特別支援学級や自校外の障がいのある同い年くらいの子ともと交流する機会がある。 (+13.7%)

→この項目については昨年度よりも約14%高くなっているが、35.8%の評価結果である。今年度はボランティア部の生徒が済美養護学校と連携した活動を行ったが、直接他校生徒とかかわる場面は設けておらず、副籍生徒との直接交流も今年度はなかったが、バスケットボール部で永福学園と練習試合をしていることなどが肯定率上昇の理由として考えられる。引き続き子供たちが交流する機会を設けるような取り組みを進めていただきたい。

- (3) 学校では、地震や火事など、様々な危険を予測し、避けるための知識や考え方について学んでいる。 (+11.4%)

→この項目については、前年度+9.7%であった。今年度は、92.7%で前年度よりさらに+11.4%高い結果となった。今年度は生徒の登校時に管理職と一部の教員にしか周知していない、抜き打ちの避難訓練を行うなどしたことで、生徒たちの意識も上がったと考える。引き続き自助・公助の視点からも防災・除災の知識や考え方を学ぶ機会を増やしていただきたい。

- (4) 学校では、授業において図書室、理科室等の特別教室を活用している。 (+29.6%)

→特別教室等の活用については、引き続き各教科で積極的な取り組みを進めていただきたい。

- (9) 先生は、いじめや仲間はずれなどがなく、相手の立場を考え、互いに協力し合う関係が作れるよう教えてくれている。 (+14.2%)

→この項目については、前年度+13.6%であった。今年度は86.8%でさらに+14.2%と高い結果となった。生徒が安心して学校生活を送ることができており高い評価を得たことの一つとして考えられる。

- (10) 先生は、学校生活が充実し、楽しめるよう教えている。 (+15.6%)

→生徒たちには引き続き基本的な生活習慣の確立を身に付けさせるよう指導を続けてほしい。そのような取り組みを進めていくことで、生徒一人一人が充実した学校生活を送ることができることにつながると考えます。

- (11) 先生は、地域でのボランティア活動の大切さを話したり、すすめたりしている。

(+10.4%)

→この項目は、生徒より保護者の評価が高い結果となっている。前述した生徒の学校独自調査の考察を参照してほしい。

- (12) 先生は、食べ物(栄養)と生活との関わりについて教えている。 (+15.2%)

→この項目については、生徒による評価が昨年度は70%に届かなかったが、今年度は80%を超える結果となった。保護者からの評価は昨年度同様大きな変化は見られないが、生徒と同じように評価結果は右肩上がりである。食べ物と生活との関わり等については、学校が家庭と連携をとりながら子供たちの成長を支援してくような体制を構築していただきたい。

◇全体的な評価を昨年度と比較すると、多くの項目で評価の数値が上がった結果となっている。

◆「特別支援教育（2）」の項目が他と比べると評価結果が低い。前年度よりは上がっているが、子供たちが済美養護学校や永福学園などの特別支援学校や特別支援学級と交流を行う機会を積極的に設けるなど、連携していく体制作りを引き続き進めていただきたい。

◇地震や火事、危険予測などの安全指導について、先生方はていねいに知識や考え方などについて指導している。

◇昨年度以上に生徒たちの多くは学校生活において学習面・生活面ともに前向きに取り組んでいる様子をうかがうことができる。引き続き外部講師を招聘しての授業を行うなど、生徒が充実した学校生活を送ることができるような取り組みを積極的に進めていただきたい。

◇学習面での質問項目では、先生方は調べ学習など進んで取り組むように指導しているが、一方で図書館等の活用の評価が約30%上がっている。学年によっての差をなくし、授業の中での計画的な特別教室等の活用を進めていただきたい。

◇生活面では学校生活が充実して楽しいと答えている生徒が昨年度に引き続き高い結果となっている。あいさつやきまりを守るなど基本的な生活習慣なども子供たちは身に付けている。社会生活で必要とされる、あいさつが進んでできる生徒の育成などに努めていただきたい。

◇学校行事等先生方の取り組みについては昨年度以上に子供たちからも評価されている。

◇「先生は、いじめや仲間はずれなどがなく。相手の立場を考え、互いに協力し合う関係が作れるよう教えてくれている（9）」の項目が、肯定率が86.8%と昨年度よりさらに14%上昇した。一方、保護者の調査結果は学年によって大きく差があるが、肯定率に乖離が見られる。これは「どちらともいえない」と回答している保護者の数が評価結果に影響していると考えられる。引き続き、学校から家庭に向けての情報発信と情報共有を進め「どちらともいえない」と答える保護者を減らしていくよう努力していただきたい。

◇次年度は今年度以上に全学年で教育相談を行うなど、先生方と子供たちと向き合う機会を多くとるよう計画的に学校経営を進めていただきたい。

◇キャリア教育（8）の項目では、3学年を平均すると76.2%である。学年別の経年変化を見ると、現2年生が昨年度48.1%から67.7%へ、現3年生が昨年度59.9%から93.8%へと肯定率が増加している。2年生では職場体験学習、3年生では進路学習や進路面談などで関連の話をする機会が増えるとともに、生徒側の意識もより具体的になり、聞くから考えるに深化している結果が表れていると考える。引き続き、1年生から将来を見据えたキャリア教育の展開を計画的に取り組んでいただきたい。

### 3 保護者

アンケートの回収率が昨年度に比べ少し高い結果となった。しかしながら、回収率では、杉並区教育調査が、66.9%、学校独自調査が55.3%である。学校独自調査の回収率を上げる方法について改善し6割以上の回収率を得られるよう努力していただきたい。

杉並区教育調査の結果を見ると、14項目中「満足できる状況」（70%以上の肯定率）の項目は2項目で、70%に満たない項目が12項目であった。中でも「課題のある状況」（50%以下の肯定率）は7項目であった。

一方、学校独自調査では、13項目中「満足できる状況」（70%以上の肯定率）の項目は11項目あった。また、「課題のある状況」（50%以下の肯定率）は1項目であった。

総合的に見ると、今年度は昨年度の肯定率70%以上が4項目であったのに対して、13項目とかなり評価も上がっている。一方で、「課題のある状況」（非肯定率）の項目数を減らしていくことが次年度に向けた課題である。

◇肯定率70%以上（「満足できる状況」）の項目は次の通り

#### ◇【杉並区教育調査】

- (10) 学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている。 (85.7%)
- (14) 子どもは、学校生活を楽しんでいる。 (71.4%)

#### ◇【学校独自調査】

- (1) 学校は、様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもたちの成長を支えていると感じる。 (72.7%)
- (3) 地域人材を活用した環境教育や避難所開設訓練などの特色ある教育活動は、子どもたちの成長に良い効果をもたらしている。 (79.1%)
- (4) 義務教育9年間を通した一貫性のある教育は、子どもたちの成長や発達により効果をもたらしている。 (70.5%)
- (5) いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。 (70.5%)
- (6) 学校での生活を通して、子どもに、地震や火災など、様々な危険を予測し、回避する力が育まれていると感じている。 (71.2%)
- (7) 教室や校庭の清掃、整理整頓など環境整備が行き届いている。 (91.4%)
- (9) 学校は、学級活動や生徒会活動、学校行事にすすんで取り組んでいる。 (78.4%)
- (10) 学校はあいさつの励行や決まりを身に付け、学校生活が向上するよう取り組んでいる。 (76.3%)
- (11) 学校は、奉仕活動など様々な体験活動を保護者や地域、関係諸機関と連携しながらすすめている。 (77.7%)
- (12) 学校は、必要に応じて保護者の意見や要望を取り入れている。 (72.7%)
- (13) 学校は、子どもの「食」と生活について、適切な指導を行っている。 (77.0%)

## ▲肯定率が70%に満たない項目について

杉並区教育調査の結果を見ると、14項目中12項目の肯定率が70%以下である。

一方、14項目中で否定率が10%以下の項目は6項目、20%以下になると13項目と1項目のみ否定率が23%であった。

肯定率が低く、否定率も低い現状を考察すると、「どちらともいえない」と回答している保護者の数が6割以上いることも、肯定率が低くなっている原因である。

学校の課題として、保護者に対して子供たちの様子や学校の取り組み等を積極的に周知し、「どちらともいえない」と回答する保護者の数を減らす必要があると考える。

以下、肯定率が50%以下の「課題のある状況」について太字で示し、考察を述べる。

### ◆【杉並区教育調査】「課題のある状況」

(4) 学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。 (44.0%)

→昨年度までは約3割の肯定率である。肯定率が上がったことのひとつとして、青少年委員の手引きによる地域イベントデザイナーの活動、出前授業等が活発になったことが挙げられる。引き続き活動をより活性化していただくことを期待する。また職場体験学習で地域に受け入れ先を担ってくださっていることなどをさらに周知することで、肯定率のさらなる上昇を目指していただきたい。

(5) 連携する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている。 (36.9%)

→例年肯定率が低い調査項目の一つである。学区小学校6年生の中学校授業体験は毎年実施しているが、中学校の保護者に周知していないので、在校生の保護者にも積極的に周知していただくことも必要と考える。また、今後は防災教育を中心に小中一貫教育を進めていくよう努めていただきたい。その際、職員の働き方改革の観点も視野に入れ協働授業に向けた打ち合わせ等の時間を捻出していただきたい。

(7) 学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。 (34.5%)

→オープンスペース等が設置されている学校であればそのような場を開放することは可能であるが、安全管理上、特別教室等を配慮なく開放することは安全面やその管理といった状況を考慮すると困難であると考え。

(8) 学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある。 (43.5%)

→この設問の言葉の強さは強い管理の印象がみられる。その点では、穏やかな雰囲気をまとう本校の姿とは乖離があるのではないかと考える。また、未然防止に努めつつ、いじめは起こるものと考え、早期発見と早期対応を重視する方策は、「絶対に許さない雰囲気」とはなじまない。管理を強化することで表面には現れなくなるかもしれないが、見えないところに移行する懸念がある。子供たちの評価結果から見ても学校生活を楽しく過ごしている生徒が9割以上いることから本校の現状を伺うことができる。またこの調査項目の否肯定率の結果が

10.7%である。「どちらともいえない」と答えている保護者が60人いることも評価を下げている原因である。いじめが少ないため「絶対に許さない」ということを感じない保護者もいるという声も聞く。引き続き保護者に対しても子供たちの日ごろの様子や、もしもの時の相談体制の在り方等について確実に周知していくよう進めていただきたい。

(11) 学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている。(44.6%)

→肯定率を上げる一つの方策としては保護者が来校したり、行事に参加したりする機会を作ることが必要と考えるが、年々、保護者も多忙になり学校に足を運ぶなくなっている。区教委も教育DXを推進し、保護者会や面談のオンライン化を推奨している。また休日等に教職員を招集して、このような機会を設定することは困難である。したがって、この項目については肯定率を上げにくいものとなっていると推測する。

(12) 子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。(38.1%)

→教員が生徒と向き合う時間を確保できないと評価していることと対になっている項目である。来年度は積極的に生徒と教員が対話できる時間を設定し、そのことを家庭にも周知することで、肯定率の上昇を目指していただきたい。

(13) 学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。(17.3%)

→昨年度より肯定率は上昇している。済美養護学校との連携、永福学園との練習試合などについて、学校だよりや生徒が家庭で伝える内容を反映していると考え。今後も済美養護学校と連携の拡大を決めており、その都度保護者等に周知することで認知度をさらに上げていただきたい。

#### ◆【学校独自調査】「課題のある状況」

(2) 学校は障がいなど、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。(46.8%)

→今年度在籍の1,3年保護者の肯定率は5割を超えている一方、2年保護者は28.6%と低迷している。保護者全体の経年では、ここ数年3割前後の肯定率が46.8%に上昇している。設問の受け取り方に幅がありそうで、障がいに限らず、優しく受容する松ノ木中生の様子を見て、配慮できていると回答された可能性がある。前述もしているが、「回答不能」とした数を除いた結果では、肯定率は67%となっている。

#### ◆【杉並区教育調査】(肯定率が50%~70%の項目について)

(1) 子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。(56.5%)

→3年保護者の回答は肯定率が9ポイントほど上昇しているが、その理由ははっきりしない。授業の成果を生活に反映できているかは、家庭で時間をともにすることで見えてくるものだと考える。保護者がフルタイムでの勤務をし、子どもが塾や習い事をしている状況等を考慮すると、この項目に回答することは難しいとも考えられる。

(3) 子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる。 (60.1%)

→昨年度までの肯定率は約3割の項目である。今年度は済美養護学校との連携等を保護者に周知したことが昨年度より肯定率の上昇につながったと考える。

(6) 子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習 e ポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。 (64.9%)

→この項目は、学年が下がるにつれて肯定率が高くなっている。小学校で使い慣れた状況で中学校に進学するようになっていること、小学生当時に家庭で活用している様子を目にした保護者が肯定的な回答をしているのではないかと推察される。今後、中学校でも家庭学習のツールの一つとしてタブレット端末を使用する機会を増やし、肯定率を上昇させることを期待する。

(9) 学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している (56.5%)

→調査結果では3年生の保護者の肯定率が大幅に上昇している。このことは、進路面談等に関わって来校される機会が増えたからと推測できる。設問に「tetoru」を入れることで肯定率が増加すると思われる。また、「学びの状況」という表現が狭くとれば授業となり、広くとれば教育活動全般となるため、個々の受け取り方で評価は変わってくるであろう。

◆前年度の結果と比較して、±10%以上の変動のあった項目は次の通り

【杉並区教育調査】

(3) 子どもは、学校で保護者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる。(前述参照) (+25.6%)

(7) 学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。

◆(前述参照) (-17.7%)

【学校独自調査】

(1) 学校は、様々な専門性をもつ人材が協力し、組織的に子どもたちの成長を支えていると感じる (+15.7%)

(2) 学校は障がいなど、参加に困難さを抱えている子どもたちも、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。(前述参照) (+17.7%)

→この項目は、昨年度肯定率が29.1%であった。今年度は46.8%まで評価が上がった。(前述参照)

(4) 義務教育9年間を通した一貫性のある教育は、子どもたちの成長や発達により効果をもたらしている。 (+10.2%)

(5) いじめや不登校などに対して、未然防止、早期発見、解決に向けて、教員が協力して取り組んでいる。 (+15.0%)

◆否肯定率が20%以上の回答があった項目は次の通り

【杉並区教育調査】

(13) 学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。(否肯定率 23.2%)

◆(前述参照)

【学校独自調査】

(4) 義務教育9年間を通した一貫性のある教育は、子どもたちの成長や発達により効果をもたらしている。(否肯定率 21.6%)

→この項目は、肯定率が昨年度から10%以上高くなったが、否肯定率も21%以上と高い。次年度は否肯定率を少なくするような学校経営を進めていただきたい。

※保護者による教育調査の結果は、昨年度と比較すると向上し評価結果も高い結果が出ている。昨年度と比較し評価の数値が上がっていないのは、昨年度高い評価を得た項目が多いことが原因となっている。

一方で、学校から保護者への情報発信や共有ができておらず、生徒の活動や学校の取り組みが保護者や地域に伝わっていない現状も結果より読み取ることができる。「tetoru」等のSNSや学校HPなどを活用し学校と保護者・地域間での敷居を一層低くしていくことで子供たちの支援につなげていくよう期待します。

教育調査の実施や回収方法等について保護者や地域に対して確実に周知していけるよう工夫が必要である。回収率は良くなっているが、引き続き回収率を上げるよう工夫した取り組みを進めていただきたい。

※杉並区教育調査の結果が学校独自調査の結果と比較すると、14項目中4項目の結果が40%以下である。昨年度は14項目中8項目であったので結果としては良くなっているが、今年度の結果で満足するわけではない。質問内容も回答しにくい内容が多くあり、中心化傾向の評価結果となっている部分も見られる。評価方法を5段階から4段階にする工夫などが必要である。杉並区教育調査の質問内容については校長会や副校長会、学校運営協議会からも教育委員会にそのことを伝え質問内容の修正を検討していきたい。

## 4 教職員

教員の「学校独自調査」の結果はすべての項目で、70%以上と高い結果が出ている。

「杉並区教育調査」では18項目中、肯定率が50%以上は12項目あり中でも3項目が70%以上であった。また、肯定率が50%以下の課題のある項目は、18項目中6項目であった。

※調査の母体数が18名と少ないため、結果の数字をもとに考察を進めていくことが適切であるか疑問であるが、数値を基に考察を進めていくこととした。

◇肯定率 70%以上(「満足できる状況」)の項目は次の通り

【杉並区教育調査】

- (3) 授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている。 (88.9%)
- (6) 学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。 (88.9%)
- (15) スクール・サポート・スタッフの活用が負担軽減につながっている。 (72.2%)

【学校独自調査】

※「学校独自調査」9項目すべてが70%以上であった。80%以上が7項目、90%以上は8項目あった。

△肯定率 50～70%の項目は次の通り

【杉並区教育調査】

- (1) 授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問や課題を立てて学べるようにしている (66.7%)
- (2) 授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。 (55.6%)
- (4) 学級の全体に関わることは、児童・生徒が自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめながら決められるようにしている。 (55.6%)
- (5) 学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている。 (66.7%)
- (7) 児童・生徒が、自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。 (50.0%)
- (9) 教員である自分自身が身に付けたい資質・能力について、必要な学びが得られており、学び続けることができている。 (55.6%)
- (11) タイムマネジメントを意識して勤務できている。 (50.0%)
- (13) 誇りややりがいをもって仕事を行うことができている。 (50.0%)
- (16) 児童・生徒が、1人1台専用のタブレット端末や学習 e ポータル、様々なデジタルコンテンツは、子供たちが学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。 (55.6%)

◆肯定率が 50%に満たなかった項目(「課題のある状況」)は次の通り

【杉並区教育調査】

- (8) 連携する小・中学校による小中一貫教育(各教科において、義務教育 9 年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等 9 が進められている。 (22.2%)
- (10) 子どもと向き合う時間が確保できている。 (44.4%)
- (12) 勤務する学校は、働き方改革に意識的に取り組んでいる。 (33.3%)
- (14) ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている。 (38.9%)

- (17) 学校の教室や校舎、敷地内には、子供たち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を揃えたりする工夫を行っている。(11.1%)
- (18) 授業や行事、学校生活全般において、その内容や進め方を、児童・生徒が自らを学びの主体であると実感しながら、自分たちで考えたり教職員及び学校関係者と話し合ったりできるようにしている。(33.3%)

※教職員については、母体数が少ないため一人が約5%の数値である。調査項目の数値結果だけでなく分布を基に考察していくこととした。

※「働き方改革」について質問している項目では、昨年度と比べると、16.7%結果が下がっている  
また、「タイムマネジメントを意識しての勤務」では、21.4%評価が下がっている。

働き方改革の基本方針に沿って教職員が働きやすい職場環境を作っていくことが大切であり、そのような職場の環境・組織作りに管理職が積極的に取り組んでいただきたい。

※「いじめ・仲間はずれ」の項目では、生徒、保護者、教員ともに昨年度より10%以上評価結果が高くなっている。子供たちが学校に楽しく通っていることや、授業をはじめ学級活動や生徒会活動、学校行事に進んで取り組んでいることでも高い評価結果になっていることから結果が他の質問項目と連動していることが考察される。子供たちや保護者、教職員にとって良いスパイラルで学校運営がさらに進んでいくことを期待する。

#### ◇教育調査のまとめと今後の在り方◇

アンケート対象の生徒・保護者・教職員それぞれについての分析と考察は詳細になされていますのでここでは今後への提言をいたします。

保護者や地域、そして生徒が学校に求めることは授業や課外活動などを通して何よりも変化の激しい社会で生き抜くための力を習得させることと考えます。生き抜く力の本質は、いつの時代でも変わらない「不易」とその時々の変化に対応した「流行」に分けられます。不易に対応することは教科の学習の基礎基本であり、流行は主体的・対話的な学び方やタブレットの活用などが一例です。

今回の教育調査の結果から生徒・保護者は松ノ木中学校での学習や生活にほぼ満足し、先生方が努力をしている姿も見えます。

なお、教職員については自らの働きの評価や働き方についてやや控えめな姿勢が見て取れます。この点については敢えて本文中の文言を再掲させていただきます。

「働き方改革の基本方針に沿って教職員が働きやすい職場環境を作っていくことが大切であり、そのような職場の環境・組織作りに管理職が積極的に取り組んでいただきたい。」

学校は社会の変化を見据えつつ、足元をしっかりと見つめ「松ノ木中学校で学んでよかった。」と  
いって卒業していく生徒の育成にこれからも全力で取り組まれることを期待いたします。